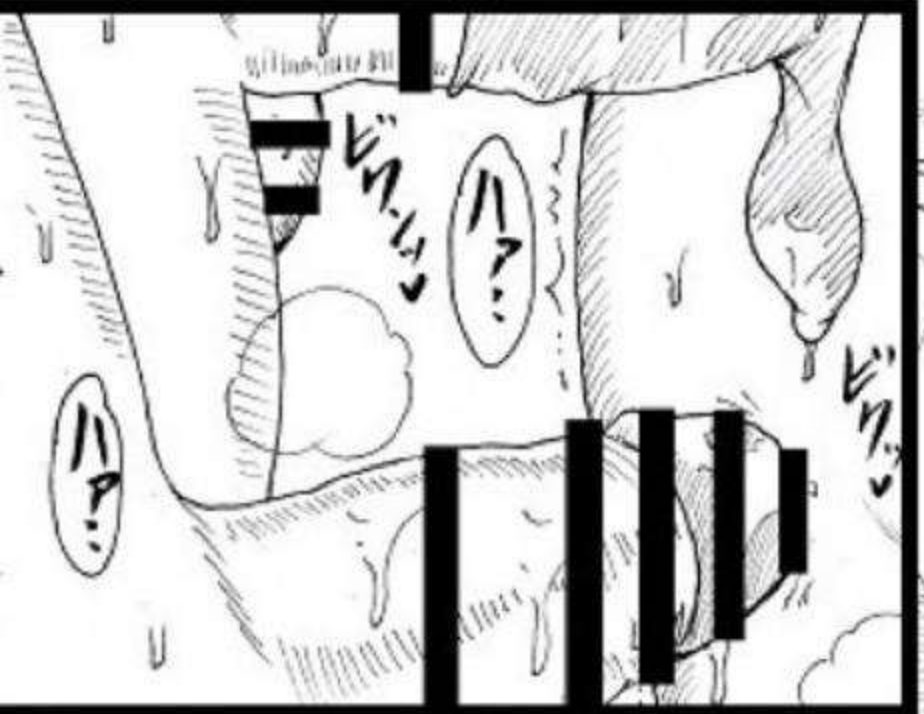


ある島のママの昼下がりに



「ホ●、ス●…ちよつとお外で遊んで来てくれるかしら？
…ええ、そうなの…
お母さん今からこの子達の面倒見なきやいけないの…」

「二人よりも年上なのにね…
「しら、そんな引っぱつちやダメ
もう、変なとこ触らないのっ
ふふ、男の子は手の掛かる
甘えん坊さんなのよ…ね」



あゝ

あん

「部屋に入るなり二人とも
おっぱいチューチューして……
ほんとに甘えん坊さんなのね」

「おばさんの乳首
隠れてるよ？」

「うふふ♥それじゃあ二人で
おばさんの乳首をホジホジ
しちやおつか……♥
乳首吸ったり舌を上手に使って
ほじくり出して頂戴……♥」



ちゅぽ

ふっ

んん

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

はっ

でろん

「すい！舐めたら
飛び出してきた！」

「これ…噛んだら
どうなるかな？」

かん

カリッ

コリッ

ビクッ

フリッ

カリッ

クチュ

クチュ

あん

ビクッ

「あらあら？
お尻好きなの？」

「うん、おばさんのおっきいお尻
見てるとドキドキするんだ…」

「柔らかい♪それにすっごく
良い匂いがする♪」

んっっ

あっっ

あんっ

「もう…剥き出しの濡れ濡れ
発情おま●こほったらかして
お尻に夢中になるなんて…
おばさん拗ねちゃうわよ♥」

むちっ♥

「おま●こ？そつ言えは
さつきから変な匂いが
するのって…？」

「おばさんの
発情おま●こ臭？」

「やだ♥
匂っちゃうっ？」

わんわん
わんわん
わんわん

むっ

んむっ

はっ

わん

わん

はっ

わんわん



「すっぽんぽんになっちゃったわね♥
おばさんの裸…どうかしら?」

「キレーだよ、とっても」

「うん、おばさん見てたら
す〜く〜トキトキする…」

ムク…

ムクムク

ムク

ムク

ムクムク…

「それじゃあ
試して
みようか♥」

「おばさんの…」

ムクムク

ムク

「す、す〜い
強烈だね…」

「さっきより
おま●の
匂いがキツク
なってる…」

ムク

ムク

「おま●」

ムクムク

ぬちやあ…



カキ

カキ

はっ

ドキ

はっ

「腰振り止まら
ないよおっ！」

「おばさん！
気持ち良いよっ！」

あー

んっ

「やん♥お猿さんになっちゃうのね♥
うふふ…やっぱ若い子の性欲に
忠実な身勝手セックスは最高ね♥」

フッ

おっ

極楽
0.01

「…いいわよ♥
思いつきり出しなせい♥
キミの初体験…記念に
撮っとしてあげるからね♥」

「ああ！出る！
出るっ！
おばさん…
出ちゃうよー！」

「白いオシッコ」
出ちゃうよおー！」

ああ！！

んま

おっ

おっ

「ちよつと待って…
順番にするって
言ったでしょ？
それにそこは
おばさん…
弱いのお…」

はちゅん
はちゅん
はちゅん



「やだやだっ！
待ってられないよー！」

「おばさんのおま●こ…
気持ち良すぎっ…！」

「おばさん…
ほくもつと
おま●こしたい…！」

「ぼくだって…
一回じゃ全然
物足りないよお…」

ポフオ

ハア…

たぶん…

ハア…

ぬとおー…

ハア…

ハア…

ハア…

ハア…

「ただいまー」

「アナタ!？」

早いわね

どうしたの!？」

「ちよっと忘れ物を
取りに来たんだ」

「あ、あら…そうなの
忘れ物はどこにあるの？」

「確かこの辺に…
一人で探すから
大丈夫だよ」

んっ

ああっ

んっ

「そ、そう…」

「ごめんなさい

掃除して汗かいて

今着替えてる

ところだから…♥」

「今日は暑い

からなく

ひとつ風呂

浴びたいよ

そうだ!

今日は久し

ぶりに二人で

風呂入るか!」

「もう、何言ってるの♥

…そうね、考えとくわ♥」

ちゅぽ

ちゅぽ

キゅい

B00B00B

B00B00B

「あはは、宜しく頼むよ、
おっ、あったぞ!」

「あら…
良かったわね♥」

ぬっちゅ

ぬっちゅ

ぬっちゅ

ぬっちゅ

ぬっちゅ

ぬっちゅ

「そう言えば玄関に見慣れない靴があつたけど、誰か来てるのか？」

「あつ！ええ…！
そうなの！ホ●とス●のお友達で四人で海へ遊びに行つたわ…♡」

「いくら海に行くからって靴も履かずに…」

「男の子だから…
アナタだって経験あるでしょ？」

「確かにな
男の子ってのは
そういうモン
だよな」

「…今日ア●ーラに観光に
来ていた家族のお子さん
みたいよ…♡
すっかり意気投合
しちやつたみたい…♡」

「なるほど
そりゃあ良かったな」

「それしにても
あいつらいつの間
にそんな友達出来て
たんだ？」

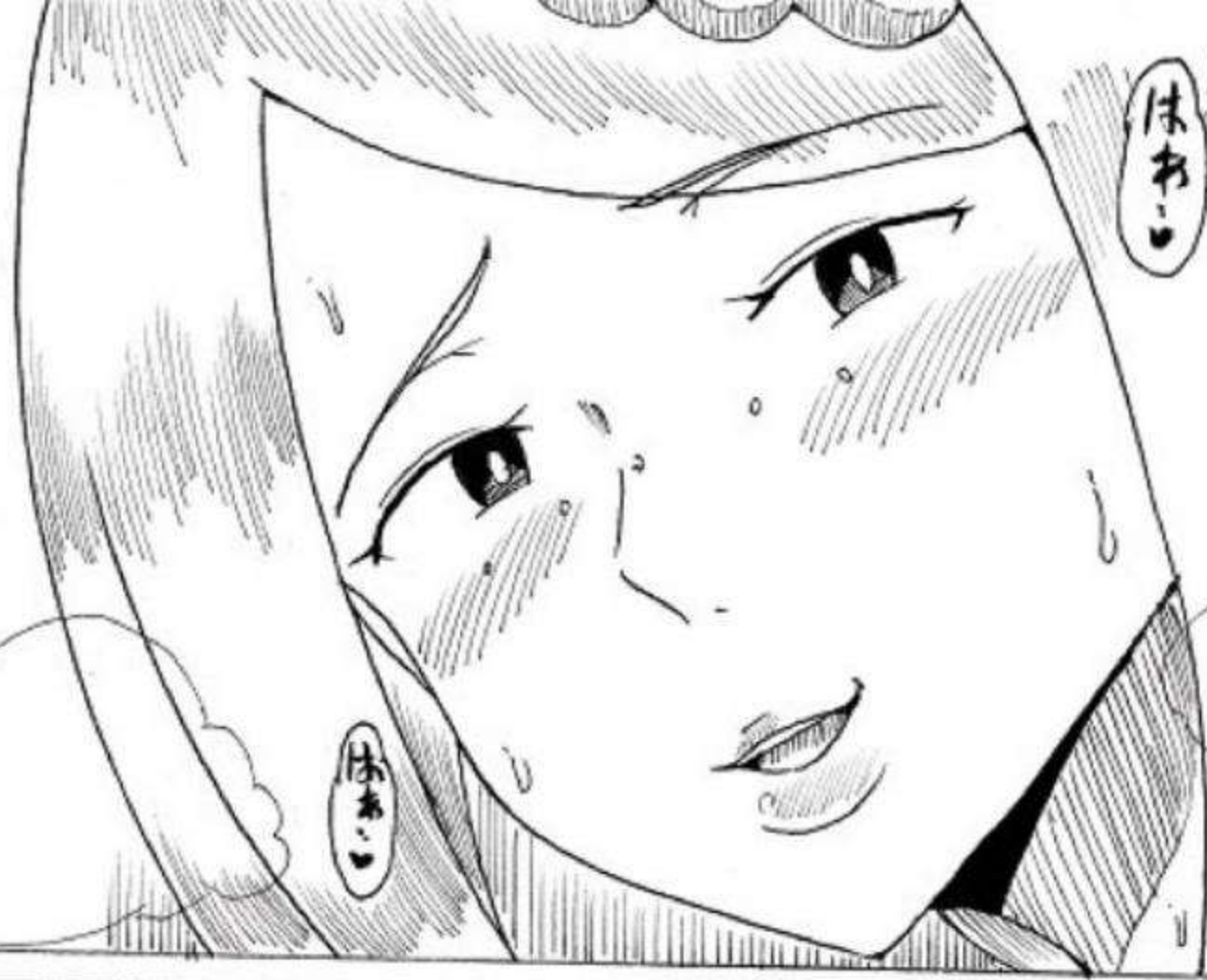
「ええ、ちよつとヤンチャで
ママに甘えん坊なとこも
あつて…良い子達よ♡」



「それじゃあ仕事に
戻るわ〜」

「行ってらっしゃい
アナタ：：♥」

はあ〜



「お仕事…
頑張つてね♥」

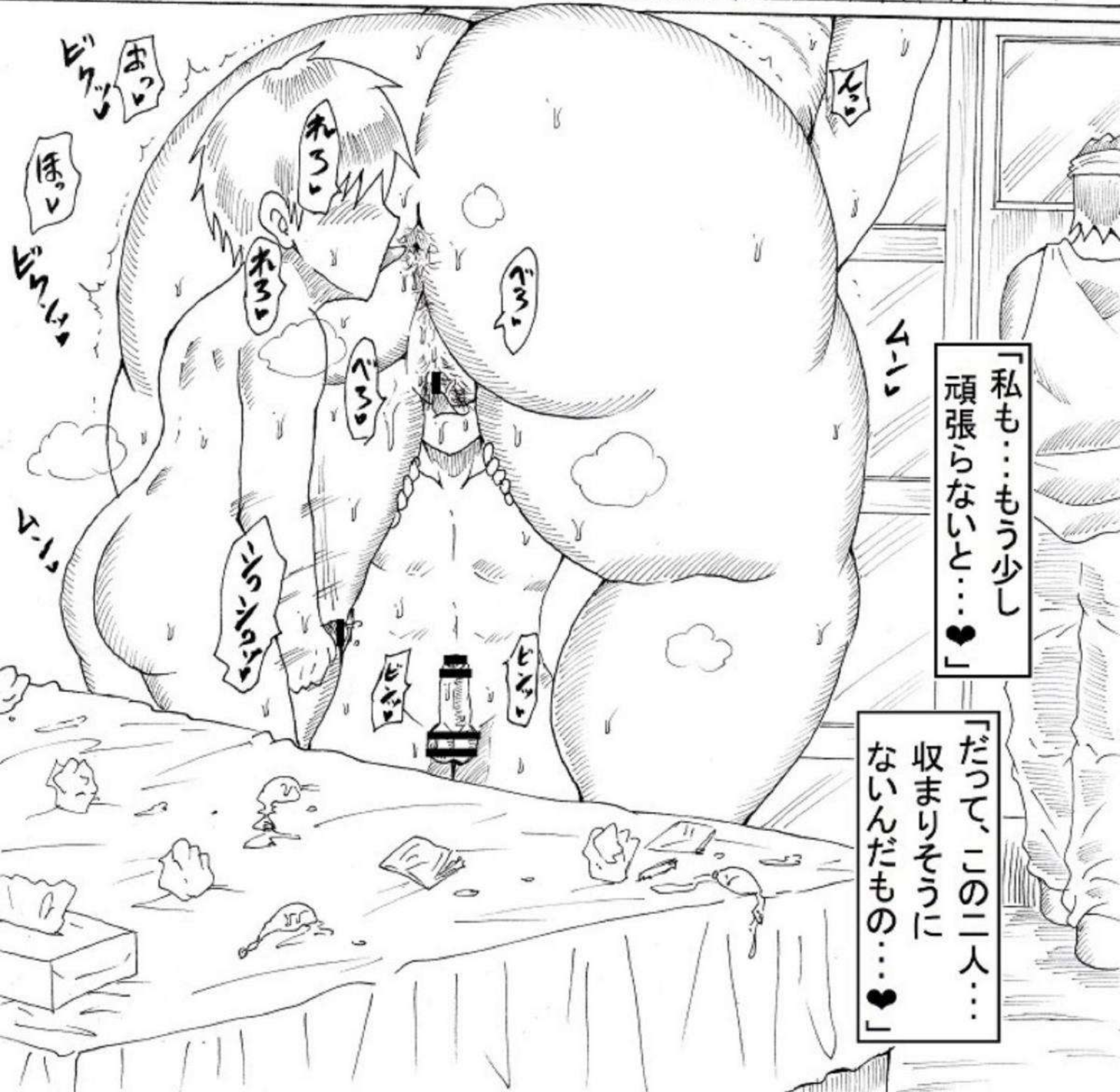
「おう」

はあ〜

「私も…もう少し
頑張らないと…♥」

ムーン

「だって、この二人…
収まりそうに
ないんだもの…♥」



おっ
ほい
はあ
はあ
はあ

おろい

おろい

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

「おばさん！
まだまだいくよ！」

「それ！また二人で
入れちやうよっ！」

ああんっ

あっ

ズッポ

ズッポ

「もお♥おばさん…
それ弱いつて
言ってるのにい…♥
だめえ♥イっちやう…♥」



んふっ

ズッポ

ズッポ



「そうだね、おばさんも
ビクビクして動かないし…」

「少し休憩しようか…」

「また…
出る…！」

どろっ

ビクッ

ズッポ

ズッポ

「おぼれっ…！」

「それじゃあ
おばさんも
二人まとめてよ♥」

ズッポ

「おぼさん」

「もつとやりたいよ」

「ぼくもぼくも」

「はあ」

「だーめ……」

もうゴム使い切っちゃったし……
それにそろそろ日が暮れるわ
今日はこれでおしまい……」

「ゴム」

「ゴム」

「えええ！」

「それじゃあ明日は？」

「明日は用事があるし……
今日やってない家事も
しなきゃだし……」

「じゃあ明後日！」

それまでにゴムも
用意してよね！」

「ほんとにもう……」

困った子達ね……
いいわ、それじゃあ
また明後日……ね」



あーい

あんい

ちゅぽ

ふっ?

んん...

ちゅぽ

ちゅぽ

ん?

ちゅぽ

むっ...

かんい

あんい

はっ...

カリッ

フリッ

クチュ...

クチュ...

ビク...

フリッ

ビク...

カリッ

ドロッ





あーっ

んっ

はっ

カッ

カッ

はっ
はっ

フッ

カッ

極楽
0.01

あーっ

あーっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

んっ

あーっ!!

んっ

あーっ



はちゅん
はちゅん
はちゅん

ハッ
ハッ
ハッ

あー
はっ

はっ
はっ
はっ
はっ
はっ

ゆっ
ゆっ

ゆっ
ゆっ

びゅん

ポフッ
ポフッ

ハッ
ハッ

たぶん

ハッ
ハッ

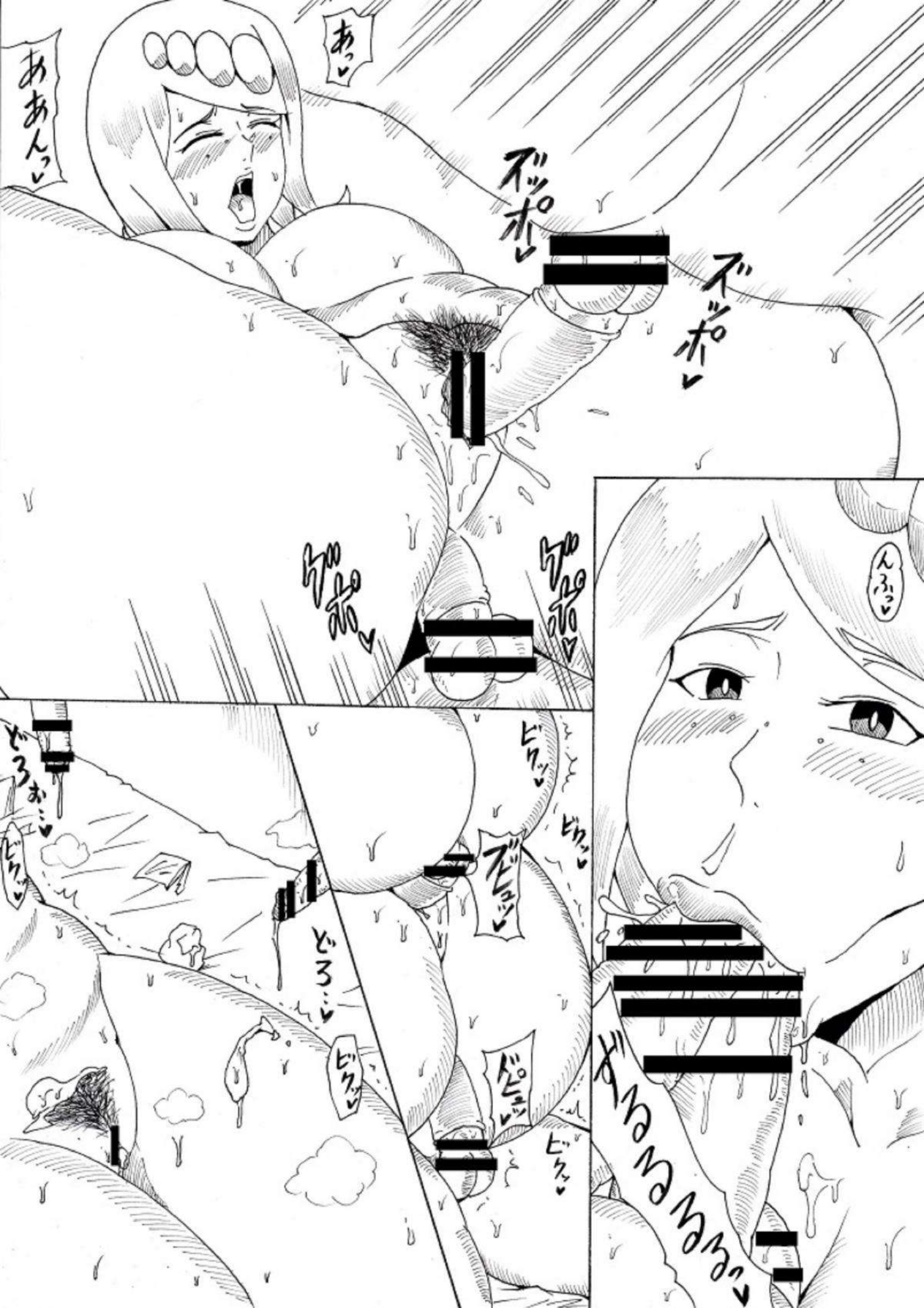
ぬとおい

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ





ああんっ

あっ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ん

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ



はあ

はあ

ふん

ふん

